［ 特集：ウポポイの／での研究 ］

特集「ウポポイの／での研究」刊行にあたって

地田 徹朗

2020年7月12日、北海道白老町に民族共生象徴空間ウポポイ（以下、「ウポポイ」）が開業した。ウポポイは、2008年に衆参両院で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択されたのを受け、内閣官房に設置された「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」において、日本のアイヌ政策の「扇の要」として位置づけられ、整備が進められたという背景がある。そして、ウポポイは、アイヌの歴史・文化に関する調査研究と展示（国立アイヌ民族博物館）、アイヌ文化の復興・伝承やそのための人材育成（国立民族共生公園）、そして、過去に大学等により発掘・収集されたアイヌ人骨の保管と慰霊（慰霊施設）といった役割を担うことになった。

ウポポイ開業の前後、その役割や博物館の展示内容などについて、インターネットメディアを中心に、様々な立場の人たちから様々な評価がなされてきた。本特集の各論考で言及されているように、ウポポイが、日本という国家や和人がアイヌに対して行った植民地化や搾取、差別の歴史を直視していない、という批判はアイヌ・和人を問わず投げ掛けられてきた。しかし、ウポポイの側がどのような理念で調査研究、展示、文化伝承活動を行っているのか、ということは実はあまり知られていないのではないだろうか。例えば、新聞メディアについては、北海道新聞が突出して多くの記事を掲載している一方で、東京をベースとするいわゆる「主要紙」は、全国版の記事としてウポポイの理念・意義やその事業内容について、十分に取り上げてこなかったというのが実情である。ウポポイ、並びにその一部を構成する国立アイヌ民族博物館の活動理念や調査・研究の内容について、情報が道外の人びとにリーチしているとは言い難い。

また、前述した三つの施設すべてを引っくるめて「ウポポイ」なわけだが、文化伝承を担う国立民族共生公園と慰霊施設は国土交通省が、国立アイヌ民族博物館は文化庁がそれぞれ所管しているという組織的なややこしさがある。国立アイヌ民族博物館、あるいは、公園側の文化伝承部門のことだけを指して「ウポポイ」というと実は不正確なのである。しかし、「ウポポイ」という総称は定着しており、我々一般市民にとってはすべてが「ウポポイ」なのである。本特集では、国立アイヌ民族博物館のことが中心的な話題となっているが、

DOI : 10.14943/jbr.12.91

国立民族共生公園のことについて扱った部分もある。しかし、少なくともこのリード文では、それらの組織的な境界は敢えて曖昧にしておきたい。縦割り行政の境界を越えて、協働してゆくことが今後益々求められるだろうからである。

本特集では、「ウポポイの／での研究」と題し、日本の全国メディアがあまり報じてこなかった、ウポポイに内在的な展示や活動の理念・ロジックを詳らかにすることを目的とする。本特集のために、ウポポイでの展示・調査研究に直接携わってきた関係者(立石信一、是澤櫻子、マーク・ウィンチェスター)、ウポポイとつながりがある外部の研究者(小坂田裕子)に論考を寄稿していただいた。小坂田は、先住民族の権利について国際人権法の観点から研究を行ってきた人物である。まだ開業して1年半しか経過していない、ウポポイ「での」研究を知ることが、ウポポイ「の」研究にもつながる。本特集をつうじて、ウポポイ、そして国立アイヌ民族博物館が目指しているものとは何かということを読者が知り、そして共に考える、そのような機会を提供できたならば特集の組織者として喜びである。

加えて、ウポポイは北海道白老郡白老町という場所にあるということも重要だ。筆者は、勤務校で白老町を舞台としたフィールドワーク科目を展開しているが、筆者が頻繁に白老町を訪れて感じていることが、かつて存在した民営のアイヌ民族博物館と異なり、ウポポイの内と外との間にそれなりに高い壁があると多くの町民が感じているということである。そこで、白老町在住でアイヌのルーツをもつ方々に、「白老町にとってのウポポイ」という趣旨でコラムを執筆してもらい、町民目線でウポポイに期待することに対して率直な意見を述べてもらうこととした(貳又聖規、田村直美)。その中の一名は、ウポポイの内部、国立民族共生公園で文化伝承に携わっている職員の方である(山丸賢雄)。特集の組織者として、ウポポイと白老町とのコラボレーションが今後さらに進んでいくこと、ウポポイと町民との間にある壁が取り払われてゆくことを切に期待したい。

なお、国立アイヌ民族博物館の佐々木史郎館長からは、『境界研究』誌でのウポポイ特集組織について快くお認めいただいた。また、山丸氏にコラムを執筆していただくこと、野本正博・公益財団法人アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部文化振興部長(元アイヌ民族博物館館長)からも快くお認めいただいた。心より感謝申し上げる。山丸氏のコラムが掲載されたことは、「ウポポイの／での研究」という特集の中で、文化伝承部門についても扱うことができたという点で、意義深いことだと考えている。そして、本特集のために充実した論考をしたためてくれた執筆者の方々に最大の謝意を表したい。